

「わが校におけるQC検定の取組の紹介」

京都府立工業高等学校
機械プランニング科
教諭 宮部 和真

1 学校紹介

本校は京都府北部に位置する福知山市に昭和38年、京都府立石原高等学校として設立され、平成2年に学科改編と校名変更を行い現在に至っています。京都府立唯一の工業系単科高等学校であり、卒業生は大学・短期大学の工学部を中心に進学したり、近隣の長田野工業団地や綾部工業団地をはじめ、民間企業に多数就職をしています。

学校名	京都府立工業高等学校
住所	〒620-0804 京都府福知山市字石原小字上野45番地
学科構成	5学科 機械プランニング科、生産システム科、電気エネルギー科 電子コミュニケーション科、情報システム科
生徒数	約540名（36名×5学科×3学年）
教育方針	「信義 創造 実践」
URL	http://www.kyoto-be.ne.jp/kyoto-ths/

教育目標

- (1) 個性の伸長と能力の開発につとめ、豊かな人間性を培い、国家及び社会の有為な形成者として必要な教養を身につけた人間を育成する。
- (2) 高度技術化社会に対応できる知識と技術を備え、豊かな創造力のある実践的な技術者を育成する。
- (3) 国際化時代に対応できる豊かな国際感覚を身につけた人間を育成する。



学校正面玄関

3 QC検定取組の具体例

ア 対象者：本校機械プランニング科（2～3年生）、他科希望者

イ 学習方法

- ・授業での指導

「工業管理技術」（2年生2単位）：4級レベル用語、QC七つ道具、3級レベル用語

- ・課外での指導

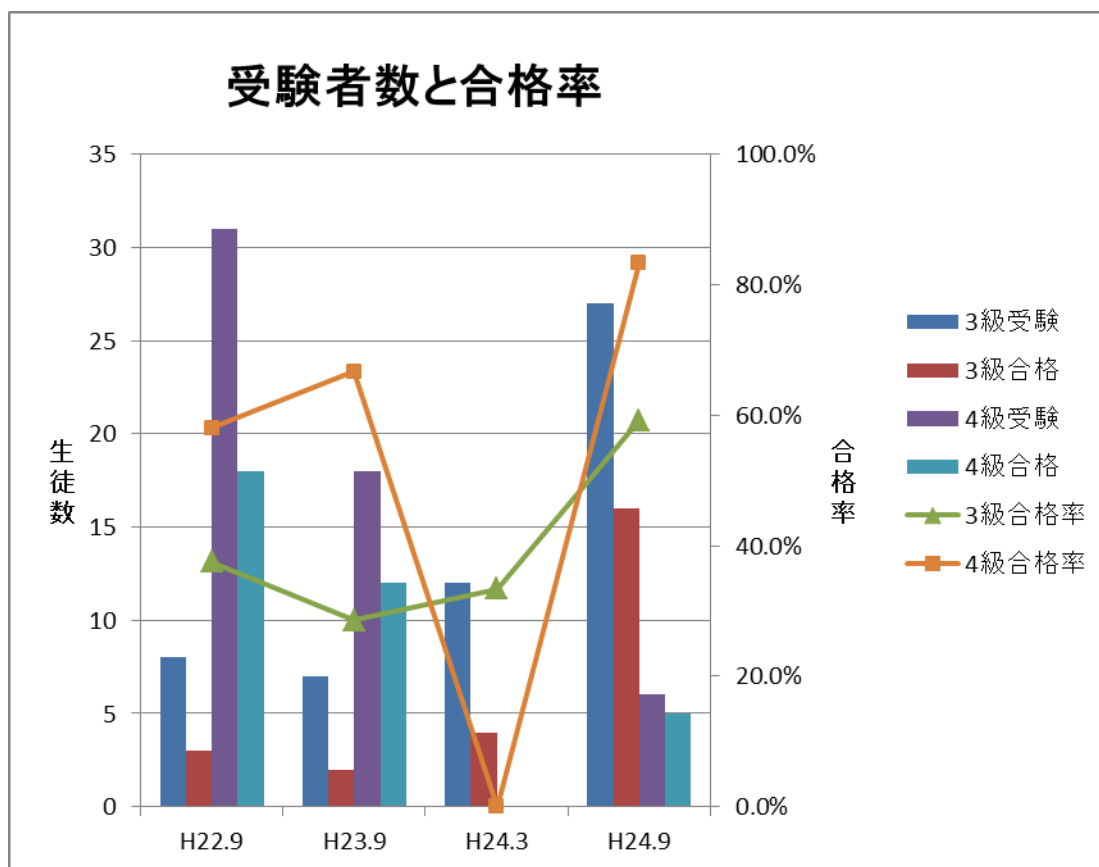
「3級受検者対象」：春期休業、夏期休業、放課後（2週間程度）

ウ 使用教材

- ・4級テキスト（日本規格協会 ホームページより）
- ・品質管理の演習問題と解説（4級、3級、2級）
- ・「ExcelでつくるQC七つ道具を使いこなす本」（秀和システム）

4 QC検定受験者の状況・実績

受検者数・合格者数の推移を以下に示す。毎回の総受検者数は増減の変化が見られるが、平成24年9月の検定では9月実施としては初めて4級よりも3級に挑戦する生徒が多かったことや4級・3級ともに合格率が向上していることがわかります。



受検者数、合格者数、合格率の推移

5 QC検定に期待すること

ア 地方での開催

私がQC検定の担当になった平成22年9月には、受検地の京都市内まで往復約6時間と旅費4000円が必要であり、受検料とあわせると高校生にとっては時間的にも経済的にもかなりの負担でした。この負担を少しでも軽減し、QC検定の受検を身近なものにするために、この頃から綾部商工会議所様への地元開催を相談させていただきました。地元会員企業様とも慎重に検討してくださった結果、平成23年3月から地元開催が企画されました。残念ながら東日本大震災による検定中止となりましたが、次の9月には初めて地元開催が実現し、本校の生徒も3級と4級を地元で受検することができました。

それ以来継続して受検させていただいており、学校内でのQC検定の認知度も向上していると感じています。地方における受検希望者の意向を地方の企業並びに団体の力を結集させることで実現させている現状を誇りに感じ、これからも地元開催に協力していくつもりです。

イ 進路面での効果

工業高校である本校では、2年生全員が近隣の企業においてインターンシップを体験します。体験先で品質に関する社内標準に触れることで、QC検定で求められている知識・技能を実践しているため、検定講習においてもこちらの説明を理解しやすい現状があります。卒業後、製造業に就く生徒が多いですが、安定した品質を高い次元で維持する活動の重要性を知っている本校の生徒は就職においても良い成果を残しています。

ウ 日常生活での効果

QC検定に取り組むと、報告・連絡・相談を表す「ホウレンソウ」ではコミュニケーションの円滑化を、整理・整頓・清掃・清潔・躰を表す「5S」では労働安全衛生の基本をそれぞれ学ぶことができます。本校では、日頃から、挨拶、服装、時間や期限の厳守などについて指導していますが、そのことが安全、仕事の能率、企業や個人に対する信頼といった観点からもたいへん重要であると再確認させることができます。

以上、本校におけるQC検定の取組事例について紹介させていただきました。